

子牛の寒冷対策について

子牛は、農場の将来を担う大切な牛です。しかし、成牛と比べて寒さに弱いため、子牛の寒冷対策は非常に重要です。

子牛が寒さに弱いのはなぜ？

子牛は、皮下脂肪が少なく寒さに弱いです。また、成牛と比べると体重あたりの体表面積が大きいために熱放散が多くなります。そのため、成牛と同じ環境では寒冷ストレスを受けます。

寒い環境では摂取したエネルギーを生命維持に優先させるので、結果として増体（成長）が悪くなります。

冬期における子牛管理のポイント

1 子牛の体を乾かす

出生直後の子牛の体は濡れており、冷気にさらされるとより強い寒冷ストレスがかかります。出生後は、タオルやワラなどで体を拭いて乾かしましょう。“できるだけ早く”が重要です。親牛になめてもらう、ドライヤーで乾かすのもよいでしょう。

最近では、カーフウォーマー（子牛保温器）を利用する農場も増えてきました。

カーフウォーマーを使用する場合は、長時間入れっぱなしにすることは避け、子牛が脱水しないように注意しましょう。

2 暖かくて清潔な環境へ移動する

体を乾かしたあとは、暖かく清潔な環境に移動します。ただし、寒くないようにと子牛を囲ってしまうと、アンモニアなどがこもって呼吸器病の発生につながります。

すきま風が当たらず、新鮮な空気が入るようにしましょう。

寒さ防止には、畜産用ヒーターやカーフジャケット、ネックウォーマーなどの保温資材を活用しましょう。また、ハッチや個別ペンには敷料をたっぷり入れて暖かさを保ちましょう。

子牛の状態をこまめに観察し、わずかな変化を見逃さず、早めに対処することが大切です！



カーフウォーマー（温風で子牛を乾かし保温する）

厳寒期は、ネックウォーマーとカーフジャケットを併用



敷料は、子牛の足が見えないくらいにたっぷり入れると暖かい